

特257  
285

吾妻八景



始



特 257

285

吾妻八景

本調子

實げにゆたかふる日ひの本もとの橋はしの

たもとの初霞はつかすみ江え戸と紫むらさきの曙あけぼのぞ

めや水みづ上かみ白しろき雪ゆきの富ふ士じ雲くもの

袖そでふる花はなのなみ目め元もとうつらうつら

御所ごしよ櫻ざくら御殿ごてん山やまなすすひひと群むれのか  
ををりにそ酔よひし園そのの蝶てふ花はのかゞし  
をかあいまをみにす青あを簾すの小を舟ふねうた  
ふこ小こうたの聲こゑ高たか繩なにニ遥はるかあ  
なたのへほといぎすす初はつ音ねのりけ

吾妻八景一

たか羽は衣ころもの松まつは天てん女にのたは  
むれを三み保ほにたとくて駿する河がの  
名なある基だいのよいのいや高たかく  
見みおろす岸きしのい伐かたもり日ひをせ  
おふたるあみだ笠かさ立つ法のりのかたへ

の宮戸川ながれ渡りにいろく  
の花の錦の浅草や御寺をよ  
そに浮れ男はいづちへそれし  
矢大神もん日に當る辻占の  
松葉かんざし二助の道のいし

本朝書八四ノ二

ふみ露ふみ分てふくむ矢立の  
隅田川目につく秋の七草に拍  
子通はず紙ぎぬた忍ぶもじ  
摺亂る雁の玉章に便りを聞  
かん封じ目をきりの渡に棹

す舟もいつこえたやら衣紋坂  
みせすがさきに引寄せられて  
つい居続けの朝の雪と積り積り  
て情の深み戀の関所も忍ぶが  
岡のはちすにされる糸竹の調

吾妻八回末三

べゆかしき浮島のゝかたなすも  
とたこもりせば 樂の音共に  
東叡よりも風がふらする花紅  
葉手に手合せてさせんの盟  
辨財天の御影もる池のほと

リ比尊たうともめぐりてや見みん

ハツやの名所なところ

吾妻八景四

昭和四年五月十日 筆工 定價 貳拾五錢  
昭和四年五月二十日 発行

大阪市天王寺區堀越町一八

筆工部 代表者 喜多源章

大阪市北區都島昭栄通り

發行元 亜細亞書店

肉筆書籍部

振替大阪八五四〇番

大取次 株式会社

東技書店

京都 大阪 神戸 大津



324  
118

國語讀本

第一冊

一

國語讀本

第一冊

第一冊



終

